

成果の説明書

(氏名)井手拓郎	(学部)地域政策学部
<p>1 重要事項</p> <p>(1) 研究活動</p> <p>観光まちづくりにおけるリーダーの発達に関するこれまでの研究をまとめ、単著『観光まちづくりリーダー論—地域を変革に導く人材の育成に向けて』（法政大学出版社）を2020年11月に出版した。</p> <p>また、本年度当初に日本学術振興会の科学研究費「基盤研究C」（研究代表者）に採択された。本年度はCOVID-19流行の状況を踏まえ、採択された課題に関する調査出張を見送り、関連する文献等の情報収集を行った。</p> <p>さらに、複数の国内学会誌から査読依頼があり、3本の論文査読を行った。</p> <p>(2) 教育活動</p> <p>観光産業論・観光まちづくり論・アーバンツーリズムという3つの講義を担当した。本年度が本学着任初年度で、個人としてはすべて新規担当科目であった。なおかつ、COVID-19流行のため、遠隔で授業を実施する必要があった。こういった状況であったため、本年度は研究活動よりも教育活動に多くのエフォートをかけることにした。各科目、毎回レジュメを用意し、そのPDFデータをTeamsによって履修者へ事前配布した。授業の実施形態は、前期の観光まちづくり論はリアルタイム型配信、後期の観光産業論・アーバンツーリズムはオンデマンド型配信とした。各講義、着実に講義を行うことができた。一方で、履修者同士及び学生と教員の意見交換やグループワークについては、あまり活発に行うことができなかった。できたとしても、積極的に参加した学生は毎回決まった顔ぶれであり、メンバーに偏りがあった。これは今後の課題としたい。</p> <p>初年次ゼミ、グループ研究Ⅱ、基礎演習という3つの演習を担当した。初年次ゼミ（リアルタイム型配信）は他のクラスと歩調を合わせながら、一方で履修者の学習状況に合わせて臨機応変に演習を進めた。グループ研究Ⅱ（リアルタイム型配信）は、リーダーシップと問題解決をキーワードに、講義と意見交換を混合させて活発な演習を展開できた。基礎演習（対面型授業）は、演習Ⅰでの専門的な研究活動に向け、研究姿勢、論文・レポートの書き方、地域調査にあたって必要なビジネスマナーなどを、学生同士の学び合い（輪読、ディスカッション等）によって習得を図った。ただし、COVID-19流行の状況を踏まえ、当初予定していた学外での活動は自粛した。この点は次年度以降の課題としたい。</p> <p>(3) 社会活動</p> <p>ゼミナール活動（基礎演習）の一環で、群馬県内外の地域や企業等と連携活動を模索し、少しずつ実践していく構想を持っていたが、これまで述べた通りCOVID-19流行の状況を踏まえ、本年度はキャンパス内での学習に集中することにした。ただし、2021年2～3月に担当教員と本学近隣の某公共交通機関との間で、協働プロジェクト実施の相談を行っている。まだ実施検討中であるため、この時点では企業名を伏せておく。COVID-19流行の状況次第という面があるが、2021年度はできることから社会活動を行っていききたい。</p>	
<p>2 その他の事項</p> <p>特になし</p>	
<p>3 次年度以降の計画・抱負</p> <p>(1) 研究活動</p> <p>科学研究費採択課題に係る研究調査の準備を着実にやっていく。COVID-19流行</p>	

の状況を踏まえながら、調査対象へのインタビュー調整や、インタビューの実施を進めていきたい。

また、地域科学研究所の「地域リーダープロジェクト」に関する文献探索や調査準備を行う。COVID-19 流行の状況を見ながら、可能な範囲で調査を実施したい。

(2) 教育活動

講義科目においては、重要事項で述べた課題（意見交換やグループワークの活発化）に取り組み、履修者の学びがより充実するよう取り組んでいく。また、ゼミナール（演習Ⅰ、基礎演習）において、学内での学習の充実はもちろんのこと、学外団体との連携プロジェクトやグループでの社会調査に取り組んでいく。

ただし、いずれにおいても、COVID-19 流行の状況に留意しながら、慎重に進めていく。

(3) 社会活動

重要事項で述べた協働プロジェクトについて、COVID-19 流行の状況に留意しながら、積極的かつ慎重に進めていく。